



まほろん通信

VOL .25

(平成19年7月1日発行)
福島県文化財センター白河館
〒961-0835
白河市白坂一里段 86
TEL 0248-21-0700(代)
FAX 0248-21-1075
URL <http://www.mahoron.fks.ed.jp>



「まほろん森の塾第7期生」 史跡散策会とお泊り会

「まほろん森の塾」とは、年間を通じて昔の生活全般について広く体験する中で、塾生自らが生きる力を身につけようとすることを支援するまほろん最大の連続体験学習講座です。本年度は5月12日の古代米での田植えに引き続き、6月16日と17日には史跡散策会とお泊り会を行いました。まほろんから南湖公園（写真）をめざして歩いていきましたが、疲れながらも塾生たちは身近なところにもたくさんの貴重な史跡や文化財があることに大変驚いていました。夕食はもみぎり法をリレーで行い火を起こしました。そして縄文土器に山菜をたっぷり入れて煮た縄文なべ、イノシシ肉を竹串に刺して焼いたバーベキュー、主食は甕かめの上に古代米を入れた甕こしきを立て、甕の蒸気で蒸した古代のごはんを食べました。火の起こし方やごはんの作り方などを通して当時の人々の苦勞や知恵の一端を知ることができ、塾生たちも大変感動していたようでした。



今後森の塾ではカラムシからの糸づくりや、秋には自分たちが作った石包丁で自分たちが田植えをした古代米を収穫することを予定しています。こうした活動を通して塾生一人ひとりに少しでも昔の人々の生活を体験してほしいと考えています。

体験学習

竹笛づくり

4月28日(土)に、19年度最初の実技講座「竹笛づくり」を開催しました。当日は13名のみなさんが参加されました。

今回は節のない女竹を材料として、七指孔の横笛を作りました。ネズミ歯ギリという円形の孔を開けるキリを3種類使って、指定の位置に指定の大きさの孔を開けていきます。なにせ直径18mm～20mm程度の細い竹ですので、少し油断して力を入れすぎると、たちまち割れてしまいます。細心の注意を払って孔を開けてから、小刀で竹の長い方向へ孔を広げていきます。今回は、昨年度実施した「古代の鉄づくり」で製作した刀子(古代の小刀)を使ってみましたが、切れ味鋭く、とても使いやすい道具でした。孔を広げ終わったら、紙やすりで孔の部分や内外面を仕上げていきます。

竹笛が出来上がった方から、早速、オリジナルの音色を楽しんでみました。中には、演奏を経験されたと思われる方もいて、すばらしい音色を出していました。

本年度も9月11日(火)から2週間にわたり、体験活動室の体験メニューとして実施します。みなさんのご参加をお待ちしています。



<竹笛づくりのようす>

開館6周年記念行事と夏休み特別体験

今年も楽しい夏休みの体験等を企画をしています。

■6周年記念サービス～勾玉無料体験抽選会～

7月14日(土)～16日(月) 10:30と13:30

▲弓矢やり投げ体験: 7月21日(土)～8月26日(日) 10:30～12:00、13:30～15:30

●バックヤードツアー: 7月21日(土)～8月3日(金) 11:00～、14:00～

★火おこし体験: 8月4日(土)～19日(日) 10:00～、13:00～、15:00～(整理券を配布)

■砂鉄選別体験: 7月14日(土)～7月16日(月) 7月21日(土)～8月26日(日)



<土器づくりのようす>

実技講座「土器作り」

5月19日(土)に今年度初の「土器づくり」講座を開催しました。今回のお手本には深鉢型の縄文土器をはじめ、浅鉢型、ちょっと珍しい香炉型、そして弥生時代の土器も用意しました。

参加者の皆さんは各自自分の作りたい土器を選び、形、厚さ、文様等を手にとってじっくり観察しても、いざ粘土で作り始めると、途中たくさんの「？」がわいてきたようです。会場のあちらこちらから「実際に作ってみたいとわからないものだね～」「土器ってこんなに凝ったものなんだね」などの声がかれました。当時の人々が「どのように作ったか」観察し、推測し、実際に真似してみることで、当時の人々の技術と工夫を実感していただけたのではないかと思います。

その後、土器を約一ヶ月間陰干しし、野焼きは6月16日に行いました。土器作りの成功は半分以上、焼きにかかっているといっても過言ではありません(実は成形の過程でも、焼いた時に割れにくいよう工夫しています)。大変完成度の高い土器ができあがりました。

次回の「土器づくり」講座は7月28日(土)を予定しています。あなたも縄文時代の大発明、「土器」を作ってみませんか?きっと「土器」を見る目が変わりますよ!



<昨年度の弓矢体験>

まほろん秋のてんじ案内

テーマ：ふくしまの重要文化財Ⅴ 古墳時代前期編

会期：10月6日～12月2日

入場料：無料

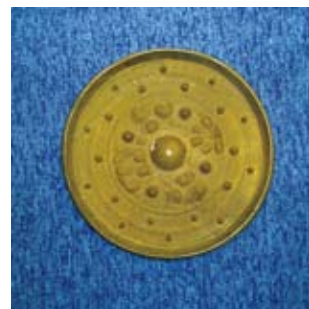
昭和39年、会津若松市にある^{あいづおつかやまこふん}会津大塚山古墳の発掘調査が行われました。会津大塚山古墳は全長114mの巨大な前方後円墳です。発掘調査によって、後円部から2基の遺体を埋葬した木棺とたくさんの副葬品が出土し、古墳の中でも古い段階の古墳時代前期に属する古墳であることが明らかになりました。会津大塚山古墳の発掘調査は、東北地方で初めて行われた本格的な大型前方後円墳の調査でした。この調査を先駆けに、このあと福島県内の各地で大型の前方後円墳や前方後方墳の調査が行われるようになりました。

このような、前方後円墳や前方後方墳などの人工の小山を築いて、遺体を埋葬した古代の墓を「古墳」と言います。3世紀後半、奈良県の和歌山地方を中心に大和王権が成立し、東北から九州までの日本各地に勢力を広げていきました。大和王権のリーダーである大王や、その重臣や地方の豪族達が亡くなると築かれたのが古墳です。古墳が造られるようになった3世紀後半から、7世紀前半の約400年余りのあいだの時代を日本史の中では「古墳時代」と呼んで

います。また、西暦200年後半から西暦300年のあいだを古墳時代の「前期」と区分しています。

福島県では、会津大塚山古墳の調査以来、各地で古墳時代前期の古墳が発見され、調査が行われるようになりました。会津^{あいつ}地方では会津若松市、会津坂下町、喜多方市に前期古墳が集中しています。中通り地方では郡山市や須賀川市、大玉村など阿武隈川中流域で発見されています。浜通地方ではいわき市や南相馬市、浪江町で前期古墳の調査が行われています。

今回の展示では、県内の前期古墳のうち、国および県の重要文化財に指定されている会津若松市の会津大塚山古墳・^{たむらやまこふん}田村山古墳、会津坂下町^{もりきた}森北1号墳、郡山市大安場古墳の出土遺物を展示し、これらの遺物をとおして、福島県の「古墳時代の幕開け」について県民の皆様にご覧いただく展覧会にしたいと考えております。特に、会津大塚山古墳の「^{さんかくぶち}三角縁神獣鏡」、^{しんじゅうきょう}田村山古墳の「^{ないこうからんきょう}内行花文鏡」、^{ほうけいじょうかくじゅうもんきょう}森北1号墳の「^{ほうけいじょうかくじゅうもんきょう}方形状区画珠文鏡」などの銅鏡や県内を代表する古墳時代前期の遺物が一堂に会します。皆様お誘い合わせのうえ、まほろんまでお越しください。



＜三角縁神獣鏡の復元品＞

シリーズ復元展示

いわき市中田横穴出土馬具の復元

まほろんでは、平成17年にいわき市中田横穴出土馬具のうち、鞍と馬のおしりの飾り「尻繫」の復元製作を行いました。そして、昨年と今年は、馬に乗ったり、馬の上で踏ん張るため^{あぶみ}鐙の復元製作を予定しています。

今回はこの鐙の復元について紹介します。いわき市中田横穴から出土した鐙金具は、すべてバラバラに出土しました。このため、復元するために、最初に金具の図面を作成し、次に金具の組み合わせを考え、これを元に鐙の設計図を作成しました。鐙はその形から、金銅装三角錐形壺鐙と呼ばれるものです。

さて、復元に際して最も苦慮したのが、鐙側面の状況でした。写真1に示したのが問題の鐙側面の金具ですが、これで解りますように、金具が全く湾曲していません。さらに、つま先側が上がっています。



＜写真1 鐙側面の金具＞



＜写真2 鐙（木質部）＞

この状態は、一般に見られる鐙の形状とはだいぶ異なります。このため、最初は、金具自体が鐙金具とは異なるのではないか？と疑いました。が、度重なる検討の結果、鐙先端が三角形で、側面が直線になる形状を有し、さらにつま先が上がる鐙であったと結論付けました。昨年完成した木質部は、写真2のような形になりました。今年、この鐙に金属を装着します。



研修たより

7月～9月文化財研修のご案内

青葉の香りを吹きおくる初夏の風も通り過ぎ、木々の緑も日増しに濃くなってまいりました。夏期に行われる文化財研修を紹介いたしますので、皆様お誘い合わせの上、ふるってご応募ください。

7月7日は、体験学習支援研修3「指導者のための火打ち金づくり」を須賀川市歴史民俗博物館で行い、火打ち金づくりを通して火の歴史を学びます。

7月21日は、専門考古学講座Ⅰを開催します。今回は「古新羅王墓の編年」と題して、福島県考古学会副会長馬目順一先生を講師に、副葬品の変化を通して朝鮮半島古新羅王墓の編年を見ていきます。

8月1日～3日には教職員発掘調査体験研修を相馬市山上の福島県教育委員会が実施している阿武隈東道路建設予定地内の発掘調査現場で行います。

8月5日は、無形の文化財研修Ⅰ「後世に民俗芸能を伝えるために～念仏踊を通して考える」を開催し、県南の念仏踊りを学びます。

8月29日～31日は、製鉄関連遺跡の調査方法を



<入門考古学講座「ふくしまの鍛冶史」のようす>

テーマとして、遺跡調査技術研修を相双地区の発掘調査現場で行います。

9月7日は、会津美里町で史跡整備研修を行います。さらに史跡整備が進められている芦名盛氏が築いた東北屈指の山城である向羽黒城の現地見学も行います。

9月22日には専門考古学講座Ⅲ「考古学の写真2」を、当館藤本館長を講師に行います。

福島 4000 年前の美

あなたの一番も探してみては？

写真の土器は、今年度の夏休み期間（7/14～9/2）に開催する「まほろんボランティア展示『福島4000年前の美』」に展示します。この展示は、当館に収蔵されている縄文土器などの復元作業に活躍しているボランティアさん達が、法正尻遺跡の土器の中から印象に残るもの約20点を選び出して展示するもので、写真の土器は中でも特に魅かれる土器だそうです。

法正尻遺跡は、磐梯山のふもとに継続的に営まれた縄文時代中期（約4000～5000年前）の集落遺跡で、当時の住居跡約130軒とともにたくさんの貯蔵穴跡が見つかっています。写真の土器も、貯蔵穴跡から見つかったものです。その貯蔵穴跡にはいくつもの土器が置かれていたようです。この土器は当時の福島県内で使用される土器の形や文様（大木8a式）をしており、底部まで残っていませんが、口縁部分の大きな4つの突起が特徴的で、それらの突起を緩や



かな渦巻状の文様でつながっています。やわらかな文様と器面の色調が、作り手の人柄まで想像できるようです。皆さんも是非来館され、ご自身の目で確かめて、自分なりの一番を探してみてはいかがでしょうか？

まほろんからのお知らせ

「ネットでまほろん」参加校募集中

まほろんでは、FKS（ふくしま教育総合ネットワーク）のビデオ会議システムを使って参加してくださる学校を募集しています。詳しくは、当館ホームページをごらんください。



ご利用案内

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしゴールデンウィークと夏休み期間中は毎日開館）国民の祝日の翌日、（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）、年末年始（12月28日～1月4日）

入館料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。）

その他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。